

浙江省人民代表大会表敬



西原 明美

1 浙江省人民代表大会 呉 晶 常任委員会副主任 表敬

- (1) 年月日 令和7年4月18日（金）
- (2) 場 所 浙江世貿君瀾大飯店（浙江ナラダグランドホテル）
- (3) 出席者 浙江省人民代表大会常務委員会副主任 呉 晶 氏
浙江省人民政府外事弁公室副主任 陳 江風 氏
浙江静岡経済交流促進機構浙江省事務局長 金 国慶 氏
浙江省人民政府外事弁公室アジア・アフリカ処長 翟 帥 氏
浙江省人民代表大会弁公庁処長 姚 蕾 氏

2 浙江省人民代表大会主催歓迎宴

- (1) 年月日 令和7年4月18日（金）
- (2) 場 所 浙江世貿君瀾大飯店（浙江ナラダグランドホテル）
- (3) 出席者 24人（静岡県18人、浙江省6人）

3 概 要

静岡県では、県内の産業界等と協議を進め、日中国交正常化10周年にあたる1982年4月20日に、中国・浙江省と友好提携を締結しています。浙江省は、静岡県の特産であるお茶やミカンの原産地とも言われており、気候や地形など多くの共通点を持つことから、友好交流先として選定された経緯があり

ます。

このたび、静岡県議会では落合慎悟議長を団長とする「静岡県議会浙江省友好交流団」を派遣し、令和7年4月18日に浙江省人民代表大会を表敬しました。

当初は4月17日に浙江省人民代表大会への表敬が予定されていましたが、浙江省人民代表大会常務委員会副主任の方々が急遽北京での公務により日程が変更となり、呉晶副主任をはじめ浙江省側のご配慮により訪問先及びスケジュールを再調整していただきました。

会談では、呉晶副主任から温かい歓迎の挨拶があり、続いて落合団長からこれまでの交流への感謝と今後の発展に向けた期待が述べられました。会談は短時間ながらも終始和やかに進み、相互理解を深める貴重な機会となりました。

呉晶副主任からは、静岡県と浙江省のこれまでの友好提携関係について、1982年の提携以来の歴史が振り返られました。経済、教育、文化、観光、農業など幅広い分野での交流実績が紹介さ

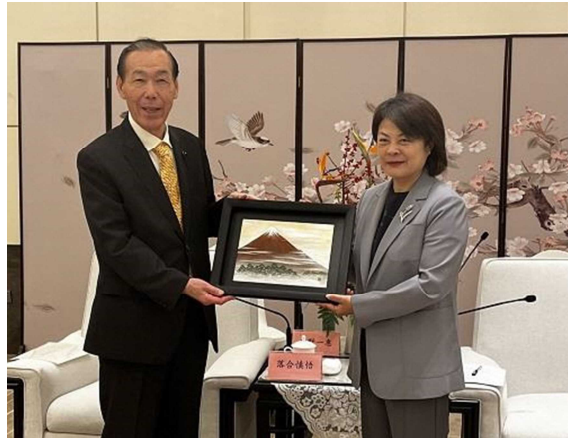


浙江省人民代表大会表敬

れ、2012年から2024年にかけての議会間交流の歩みや、40周年記念式典、相互訪問などの主要な節目についても言及されました。

浙江省の概要については、面積約10万平方キロメートル、人口6,670万人という規模で、歴史と文化が豊かな土地であることが説明されました。経済面では、2024年のGDPが9兆元に達し、成長率は5.5%と、引き続き安定した発展を遂げているとの報告がありました。さらに、全国でも第4位にランクされるイノベーション能力を有し、ディープシークやユニツリーといった革新的な企業の発祥地でもある点が紹介されました。

今後の交流についても意見交換が行われ、両地域が友好協力関係をより深めていくことが確認されました。議会間の制度交流や、法律・福祉・地域振興といった政策分野での情報共有に加え、デジタル、介護、A I、新エネルギー、健康など新たな協力分野についての検討も話し合われました。特に、青少年交流や



記念品の交換

大学間連携、文化芸術、観光、スポーツといった民間交流の拡充に向けて、双方が積極的に取り組む姿勢を確認しました。

落合団長からは、コロナ禍で訪問が叶わず 2018 年以来の交流継続を喜ばしく感じている旨が述べられ、2008 年に初めて浙江省を訪問した際の思い出も共有されました。長年にわたる経済・医療・農業・人材育成分野での協力関係の成果に触れ、今後もその実りを広げていくことの重要性が強調されました。

今回の表敬は短時間ではありましたが、議会間の信頼関係と今後への可能性を再確認する場として、大変意義深いものとなりました。

4 まとめ

今回の訪問を通じて、静岡県と浙江省の間に築かれてきた長年の信頼と友情の重みを、改めて深く実感する機会となりました。

当初予定していた浙江省人民代表大会主要幹部との会談が急遽実現しなかったことを受け、浙江省側は心配りをもって、表敬の前日である 4 月 17 日に、浙江省人民政府主催による歓迎会を開催してくださいました。

限られた滞在時間の中ではありましたが、浙江省側の真摯かつ温かいご対応、そして各場面で示された歓迎の気持ちに、訪問団一同深い感銘を受けました。中でも、浙江省人民政府幹部による口笛（鳥の鳴き声）の披露や、浙江省人民

代表大会副主任による日本の歌謡曲「北国の春」のアカペラ独唱といった心のこもった余興は、文化を超えた友情を体現するものであり、会場全体が温かい感動に包まれました。惜しむらくは、静岡県側からの歌の披露に応じられる者がいなかったことが心残りです。

国を越えた交流の中にこそ、地域を豊かにし、議会人としての視野を広げる可能性があることを、身をもって感じた訪問となりました。

今後も、このような国際交流の経験を、日々の県政にどのように活かしていくかを常に意識しながら、静岡県議会の一員として、地域の発展と国際的な理解の架け橋となるよう、努力を続けてまいりたいと感じております。



呉副主任（右）と筆者



表敬会場にて